

銀杏の栽培指針

「栽培ごよみ」



月	生 育 期	管 理 作 業
3		春肥施用（融雪直後） 果樹専用1号
4	開 花 期	接ぎ木 除 草①・敷 草
5		防 除 ハマキムシ類 トアロー水和剤C T 1,000倍（収穫前日まで）
6		除 草②・敷 草（乾燥防止） 追肥施用 果樹専用1号
7	生理落果期	誘 引
8	硬 核 期	除 草③
9		
10	着色成熟期	除 草④ 収穫・皮剥き・比重選・乾燥調製
11	落 果 期	選別・出荷 基肥施用（醗酵けいふん・苦土石灰・果樹専用1号）
12	休 眠 期	縮間伐・整枝・敷草除去 野そ駆除 メリーネコりん化亜鉛 雪囲い・雪つり・そえ木
1		
2		接ぎ穂採取・貯蔵



栽培管理ポイント

①基準施肥量

（1本あたり）

	基 肥（12月）	春 肥（3月融雪後）	追 肥（6月）
未 結 実 樹	醗酵けいふん 7 kg 苦 土 石 灰 2 kg 果樹専用1号 2 kg	－	果樹専用1号 1 kg
結 実 樹	醗酵けいふん 15 kg 苦 土 石 灰 2 kg 果樹専用1号 2 kg	果樹専用1号 4 kg	果樹専用1号 4 kg

土壌条件に合わせ、基肥（12月）に有機質（完熟堆肥）等の施用も行う。

②防 除・除 草・敷 草

- ケムシ類はふ化幼虫期に防除を徹底する。（散布後発生した場合は随時防除を行う）
- コウモリガの発生源を減らすため、年4回の下草刈りを行う。
- 草刈り後は樹冠下に敷草し、乾燥を防止する。
- 全面草刈りが困難な場合は株元だけでも草刈りを行い、コウモリガの枝幹侵入の早期発見に努める。

③収 穫

- 自然落果し始めるまで十分に登熟させる。
- 風などで早期に落果したものは廃棄する。

④皮剥き

皮剥き機の利用を原則とし、荒剥きした後、再度機械にかけ果肉は全て取り除く。（黄ばみ防止）

⑤比重選・乾燥調製

- 必ず乾燥させてから比重選を行い、浮いた銀杏を取り除く。（品質向上）
（比重選は水10ℓに硫安2.6kgを溶かし、比重1.13に調製する。）
- カビ防止のため、よく水洗いし、乾燥は風通しの良い日陰で十分乾燥する。
※加温による乾燥は行わない
- 選果場へ出荷するときは、ネット袋に入れて出荷する。（カビ防止）

⑥縮間伐・整 枝

大粒の銀杏を収穫するために縮間伐と整枝をする。縮間伐は柿と同じ方法（P101参照）で行う。整枝は以下の点に注意する。

- 最も枝先が高くなっている枝、幹に対して発生角度の狭い立ち枝を優先して切る。
- 枝数が多くて混み合う場合、太い枝のうち1/3くらいを切り、段階的に改善する。